



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	[展示] 森本厚吉点描 : 札幌農学校受験から北海道帝国大学離任まで
Citation	北海道大学大学文書館年報, 6, 148-154
Issue Date	2011-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45220
Type	other
File Information	ARHUA6_008.pdf



< 資 料 >

〔展示〕 森本厚吉点描——札幌農学校受験から北海道帝国大学離任まで——

1. 資料見学会について

2010年4月9日、札幌農学校第19期生森本厚吉のご令孫森本晴生氏（新渡戸文化学園学園長）の来館を機に、資料見学会「森本厚吉点描——札幌農学校受験から北海道帝国大学離任まで——」を、附属図書館中会議室で開催した。

また、7月15日に、森本厚吉ご孫女の深山厚子氏（聖心会シスター、台湾在住）が竹井恒子氏（元聖心会日本管区長・元聖心女子学院理事長）と共に来館された折にも、資料見学会を再度開催した。

2. 森本厚吉について

森本厚吉（1877-1950年）は京都府舞鶴に生まれた。札幌農学校教授であった新渡戸稲造に私淑して、1895年に札幌農学校予科に入学、1897年本科へ進学して農業経済学を専攻した。1901年第19期生として卒業後、アメリカ留学を経て、1906年札幌農学校嘱託講師となり、東北帝国大学農科大学予科教授、助教授、教授と昇任した。日本における消費経済学の先駆者として北海道帝国大学農学部で教鞭を執った。

大学外では、自身の理論実践に向けて、月刊雑誌『文化生活』の創刊（1921年）、「文化アパートメント」の開館（1926年）、女子文化高等学院（現在の新渡戸文化学園）の創設（1927年）など、「文化生活」普及運動を精力的に推進した。1932年に北海道帝国大学を離任した後は、東京女子文化高等学院の後進である女子経済専門学校校長を務め、女性の教育にも力を入れた。

森本が主導した文化生活運動は、アメリカの社会形態と生活スタイルを参考に、日本のブルジョア階級とプロレタリア階級の中間に「中流階級」を設定して「国家の中堅」、「新日本の模範階級」と位置づけ¹⁾、彼らのあらゆる生活側面を能率化し、高い文化的生活を目指そうとするものであった。人間生活を対象とした森本の経済学研究は、当然に女性の存在を重視することに繋がり、その地位向上と教育整備を運動の中核に含み込むことになった。森本は北海道帝国大学在職時代、1918年加藤セチが入学を希望した際に、教務部主任・女子入学調査委員として女性の入学に積極的な立場を取り、北海道帝国大学初の女



森本厚吉

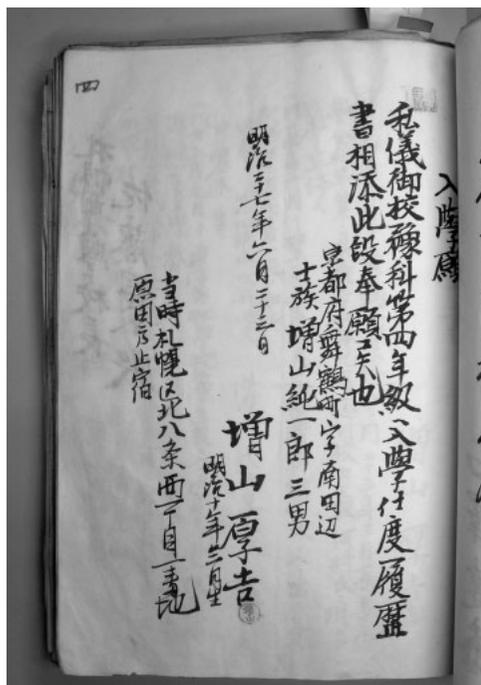
（『北海道帝国大学創基五十年
記念写真』より）

性の入学実現に大きな役割を果たした²⁾。また、女子文化高等学院・女子経済専門学校の創設も、文化生活運動の主要な要素に位置付く活動であったと捉えることができる。

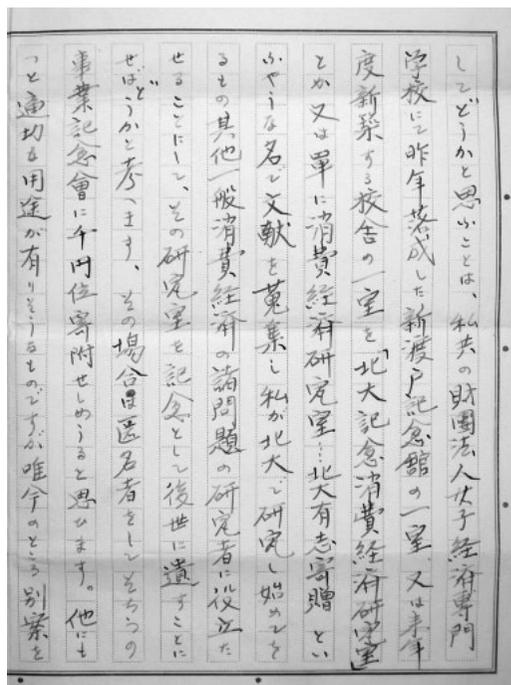
一方、札幌農学校予科で同級生として出会った有島武郎とは、終生の親友となった。在学中には一緒に定山溪へ旅行に出掛け、トーマス・カーライル『サータ・レザータス（衣裳哲学）』の研究会を立ち上げた。1901年には、2人にとって最初の著作となった『リビングストーン伝』を共著として出版した。卒業後も、大学教官の同僚として、また文化生活運動の同行者として、親交が絶えることはなかった。森本は、1923年の有島死去後の対処・措置を行ない、北海道狩太村（現ニセコ町）にあった有島農場の解放にも関わった³⁾。

3. 展示資料について

見学会では、多彩な活動を展開した森本厚吉の足跡を、(1)受験生時代、(2)札幌農学校在学時代、(3)教官時代、(4)北海道帝国大学離任後、と時代順に構成し、大学文書館が所蔵する札幌農学校・帝国大学簿書などの文書資料、中島九郎関係資料中の書簡類、北海道帝国大学新聞の記事、写真などの関連資料でたどった。関東大震災復興状況の研究的視点からの視察、北大離任後の農業経済学研究室との交流など、展示資料は、森本の研究・活動・人脈の広がりを如実に示している。



札幌農学校予科入学願（1894年）
（展示資料2）



中島九郎宛て森本厚吉書簡（1938年6月8日付）
（展示資料13）



札幌農学校予科在学時代 (1896年)

前列3列目右から2番目、腕組みをして眼鏡をかけた青年が森本厚吉。(展示資料P2)



農業経済学教室員 (1912年)

中列右3番目から森本厚吉助教授、佐藤昌介学長、高岡熊雄教授、中島九郎助教授 (展示資料P6)

〔注〕

- 1) 森本厚吉『生存より生活へ』(1921年11月、文化生活研究会出版部)。
- 2) 山本美穂子「佐藤昌介の女子高等教育論—北海道帝国大学における女性の入学をめぐる—」(『北海道大学大学文書館年報』第3号、2008年3月)、31頁。
- 3) 森本厚吉伝刊行会編『森本厚吉』(1956年12月、河出書房)、59-76頁。

森本厚吉略年譜

1877年	0歳	3月4日、京都府舞鶴に、増山純一郎三男として生まれる
1890年	13歳	4月、舞鶴明倫高等小学校卒業
1891年	14歳	5月、横浜英和学校入学(～1892年6月退学)
1892年	15歳	9月、東京東洋英和学校普通科入学(～1894年6月卒業)
1894年	17歳	9月、北鳴学校第5年級入学(～1895年3月卒業)
1895年	18歳	7月、森本活造の養子となる、札幌農学校予科第4年級入学
1897年	20歳	7月、札幌農学校予科修了
		9月、札幌農学校本科入学
1901年	24歳	3月、有島武郎と共著で『リビングストーン伝』を警醒社書店から出版
		7月、札幌農学校本科卒業(第19期生)
		8月、東北学院教授となり歴史・経済学を担当(～1903年7月)
1903年	26歳	8月、アメリカ、ジョンズ・ホプキンス大学院に入学し、経済学・歴史学を専攻(～1905年10月退学)
1906年	29歳	9月、帰国
		10月、札幌農学校講師(英語・歴史・農史担当)
1907年	30歳	7月、学事視察のためアメリカ出張(～8月)
		9月、東北帝国大学農科大学予科教授、予科主事(～1909年12月)、山角静子と結婚

1908年	31歳	6月、東北帝国大学農科大学助教授
1909年	32歳	12月、教務主任（～1915年9月）
1915年	38歳	7月、経済学財政学講座担当（～10月）
		9月、経済学・財政学研究のためアメリカ留学を受命
		11月、ジョンズ・ホプキンス大学院特待研究生として経済学を研究
1916年	39歳	6月、博士論文を提出し、Ph.D（経済学）の学位を取得
1918年	41歳	4月、帰国、北海道帝国大学農科大学助教授、経済学・財政学講座担任、教務部長（～9月）
		8月、北海道帝国大学農科大学教授（翌年から農学部教授）
		9月、教務部主任（～1921年12月）、“The Standard of Living in Japan”をJohns Hopkins Pressより出版
1919年	42歳	7月、法学博士（総長推薦）
1920年	43歳	3月、『生活問題 生活の経済的研究』を同文館より出版
		4月、講義録『文化生活研究』を刊行
1921年	44歳	3月、吉野作造・有島武郎と『私どもの主張』を文化生活研究会より出版
		6月、月刊雑誌『文化生活』を刊行
		11月、『生存より生活へ』を文化生活研究会より出版
1922年	45歳	10月、『新生活研究』を文化生活研究会より出版
		12月、東京に財団法人文化普及会を設立
1924年	47歳	7月、『滅びゆく階級』を同文館より出版
1926年	49歳	1月、『アパートメントハウス 新しい住宅の研究』を文化普及会より出版
		7月、アメリカ出張（～11月）
		12月 文化アパートメント開館（～1943年閉鎖）
1927年	50歳	2月、女子文化高等学院創設（森本静子院長）
1928年	51歳	3月、財団法人女子経済専門学校を設立、理事長に就任（新渡戸稲造校長）、月刊誌『文化生活』を『経済生活』と改題
		6月、ヨーロッパ・アメリカ出張（～1929年1月）
1932年	55歳	3月、北海道帝国大学教授退職
1933年	56歳	10月、新渡戸稲造死去に伴い、東京女子経済専門学校校長に就任
1940年	63歳	3月、『消費経済』を大日本図書より出版
1944年	67歳	3月、女子経済専門学校を東京女子経済専門学校と改称
1946年	69歳	3月、『文化生活』復刊（～1948年7月廃刊）
1947年	70歳	4月、新制移行に伴い、東京経専中学校・高等学校校長に就任
1950年	73歳	1月31日、逝去

展示資料目録

1. 陳列資料目録

I. 受験生のころ	
1	『北鳴学校紀事』(1895年3月) 図書／附属図書館北方資料室蔵
	北海道庁立札幌中学校の新設にともない、道内の男子中等教育機関であった北鳴学校は閉校した。同校の教頭は、新渡戸稲造札幌農学校教授。『紀事』には、北鳴学校5年級の増山厚吉が、新渡戸稲造教頭に感化を受けた学生生活を記している。
2	「予科願・履歴書」(1894年6月23日付)、「予科入学試験成績」(1894年7月) 文書／大学文書館蔵(札幌農学校簿書480)
	1894年6月東洋英和学普通学全科卒業した増山厚吉は、札幌農学校予科4年級を受験したが入学とならず、翌年6月再受験の後に予科へ入学した。展示資料は、1894年6月札幌農学校予科受験の際の願書と成績表。
II. 札幌農学校生のころ	
3	「第二学期試験延期願」(1897年5月25日)、「受験願」(1897年8月26日) 文書／大学文書館蔵(札幌農学校簿書549)
	1897年5月、予科生の森本厚吉は脚気に罹患した。私立北海病院の診断により、療養が必要と診断されたため、札幌農学校は森本に第三学期試験の延期と快復後の再試験を許可した。
4	札幌農学校舎務掛「寄宿生ニ関スル出納書類」(1898年1～12月) 文書／大学文書館蔵(札幌農学校簿書617)
	森本厚吉は、衣類洗濯料として19銭5厘(1898年6月)、賄料として1898年7月1日～12月の代金34銭(1898年7月)を請求されたことが、寄宿舎の出納記録に見られる。
5	「在学証書」(1899年12月11日) 文書／大学文書館蔵(札幌農学校簿書964)
	本科進級にあたって、札幌農学校規則を遵守する旨、誓約して提出した森本直筆の書類。
6	「身体検査票」(1900年4月) 文書／大学文書館蔵(札幌農学校簿書723)
	本科3年級の森本厚吉が受けた身体検査票。身長は159.5センチ、160センチの有島武郎とはほぼ同じ背丈であった。
7	「札幌農学校創立二十五年紀年祝賀会書類」(1901年3月) 文書／大学文書館蔵(札幌農学校簿書762)
	祝賀会の学生当番として、森本厚吉と有島武郎は「装飾係」を担当した。ほかに、森本は「接待係」を、有島は「新聞係」を兼務した。

Ⅲ. 母校の教官となって	
8	森本厚吉助教授講義「経済原論」(樋口櫻五受講ノート) ノート/大学文書館蔵
	樋口櫻五(1914年東北帝国大学農科大学大学予科卒業、1917年東北帝国大学農科大学農芸化学科卒業)は、森本厚吉助教授の講義「経済原論」を、農芸化学科1年級在学時(1914年9月~1915年6月)に受講し、2冊のノートに書き留めた。ノートには、「Economics」の試験問題も挟まれている。
9	関東大震災に際する「罹災生活問題」調査・研究出張願(1923年9月10日付) 文書/大学文書館蔵(帝大簿書491)
	1923年9月1日関東大震災後、森本厚吉教授は、佐藤昌介総長宛てに、「罹災生活問題」調査の必要性を訴え、9月13日より往復10日間の見込みで、東京・横浜における調査旅行を申請した。
10	「復命書(グブラー博士招聘ニ関スル件)」(1925年3月3日付) 文書/大学文書館蔵(帝大簿書281)
	1925年3月3日、森本厚吉教授は、佐藤昌介総長の命により、Arnorld Gublerをドイツ語外国人教師として招聘すべく、Gublerが勤める福島高等商業学校に赴いて蒲生保郷校長を説得した。Gublerは1925年8月~1931年7月まで北海道帝国大学で教鞭を執った。
11	「海外旅行報告に関する件」(1926年12月12日付) 文書/大学文書館蔵(帝大簿書262)
	1926年7月~1926年11月、森本厚吉教授は米国出張を命じられ、ジョンズ・ホプキンス大学創立50周年記念式典に列席し、さらに、世界博覧会(於フィラデルフィア)を通して米国経済界の視察を行なった。
Ⅳ. 北海道帝国大学を離任して	
12	中島九郎宛て森本厚吉書簡(1938年3月6日付) 封書/大学文書館蔵(中島九郎関係資料)
	1932年3月北海道帝国大学を退職後、後輩で同大学農業経済学科教授の中島九郎に宛てた書簡。
13 14 15	中島九郎宛て森本厚吉書簡(1938年6月8日付) 中島九郎宛て森本厚吉書簡(1938年7月21日付) 中島九郎宛て森本厚吉書簡(1938年9月15日付) 封書/大学文書館蔵(中島九郎関係資料168ほか)
	農業経済学教室との交流は1932年3月北海道帝国大学を退職後も深められた。

2. パネル目録

P 1	札幌農学校教官・学生生徒一同 (1895年11月3日) 写真/大学文書館蔵 (百年史編纂資料105)
	天長節に際して、演武場正面にて撮影された。前列2列目の教官たちには、シルクハットの佐藤昌介校長、新渡戸稲造教授、宮部金吾教授などの姿が見られる。予科在学中の森本厚吉は、後列2列目の左から5番目。
P 2	札幌農学校予科生たち (1896年) 写真/大学文書館蔵 (百年史編纂資料107)
	木村徳蔵・岩波六郎・星野勇三ら後の19期生の姿が見られる。前列3列目右から2番目、腕組みをして眼鏡をかけた青年が森本厚吉。
P 3	原十太教授を囲んで (1897年頃) 写真/大学文書館蔵 (百年史編纂資料114)
	最後列右端が森本厚吉。動物学修学旅行記念に撮影したものと考えられる。
P 4	第19期生の予科修了記念 (1897年7月) 写真/大学文書館蔵 (百年史編纂資料112)
	予科の講義を担当していた新渡戸稲造教授、手島十郎囑託講師を囲んで。最前列右2番目が森本厚吉。
P 5	星野純逸送別記念 (1897年) 写真/大学文書館蔵 (百年史編纂資料116)
	有島武郎『星座』にも描かれた星野純逸は、結核治療のため、1897年冬帰京した。有島武郎も星野の右手前に写っている。
P 6	東北帝国大学農科大学農業経済学教室卒業記念 (1912年) 写真/大学文書館蔵 (中島九郎関係資料235)
	農業経済学教室の教官陣は、中島九郎 (1910年卒業)、高岡熊雄 (13期生)、佐藤昌介 (1期生)、森本厚吉 (19期生) で構成された。
P 7	新渡戸稲造来札に際して (1931年5月) 写真/大学文書館蔵 (百年史編纂資料699)
	後列左2番目が森本厚吉教授。新渡戸稲造を迎えて、松村松年、高岡熊雄、南鷹次郎、須田金之助、星野勇三、時任一彦、平塚直治、佐々茂雄、半澤洵ら札幌農学校卒業生が集った。
P 8	森本厚吉・静子夫妻来札記念 (1938年10月12日) 写真/大学文書館蔵 (中島九郎関係資料260)
	森本厚吉・静子夫妻の来札を記念して、北海道帝国大学農学部農業経済学教室メンバーが揃い、中央講堂で記念撮影をした。
P 9	「社会に尽した功績数々 惜しまれつゝ、学園を去る森本厚吉教授」 (1932年) 1932年2月1日付『北海道帝国大学新聞』/大学文書館蔵
P 10	「聴衆を魅了し去った森本教授講演会」 (1932年) 1932年2月15日付『北海道帝国大学新聞』/大学文書館蔵
P 11	「先輩で賑った森本教授送別会」 (1932年) 1932年2月15日付『北海道帝国大学新聞』/大学文書館蔵